

睡眠モニタリングセンサーの導入に関する考察

社会福祉法人 清香会
障がい者支援施設清香園（障害者支援施設）

課題

- ①利用者の高齢化
 - ②高齢化に伴う突発的変調
 - ③夜間の睡眠状況が複雑化
（昼夜逆転等）
- これに伴う夜間支援の負担増

ロボット
導入

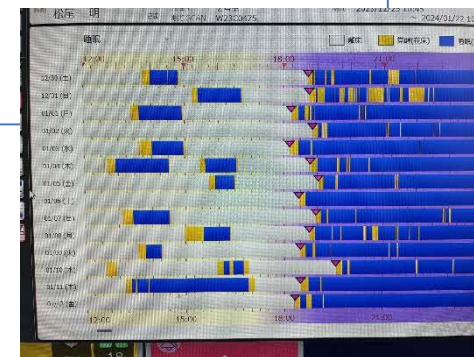
成果

- ①睡眠の量と質のデータ化
- ②夜間見守りに関する支援者の安心感が増
- ③呼吸、心拍など複数のバイタルと組み合わせて
体調の変化の把握が可能となった

医療機関受診の際、参考データとして嘱託医等との
情報共有が可能となった



眠りスキャン
（パラマウントベッド株式会社）



業務効率化のステップ

- ①利用者の高齢化に伴い様々な疾病等のリスクが増大してきている
- ②睡眠モニタリングセンサーを導入することでバイタル記録を蓄積し体調変化の端緒を掴むことが重要
- ③夜間見守り巡回時は定期的には居室の中に入り利用者の状況の把握を行っていたことから場合によっては利用者の睡眠の妨げとなってしまうことも生じていた
- ④高齢化に伴い夜間就寝時間の転倒リスク等も増えてきていることから離床等が把握できるものが良い
- ⑤データ化されたバイタル情報を支援計画などに反映し健康を維持し安定継続的な利用につなげる

職員の声など

【良かった点】

夜間見守りの際に利用者の安眠が担保できる方法は以前から模索してきたが、居室に直接出入りして確認することしかできなかったため支援者にはもちろん利用者にとっても導入の効果は大きい。利用者本人やご家族への安心にもつながっているのでサービスの質向上を図ることができた。感染症流行時など離れた場所からモニタリング可能

【悪かった点】

機械のため操作や定期的なメンテナンスが欠かせない
今後、ソフト更新などでの費用発生も考えられる
便利な反面、故障時や機器更新の際の費用が心配

【今後の課題・その他】

業務の効率や負担が大きく違ってくることからこのような機器の有無によって人材確保にも大きく差が出てくるように感じる。
魅力ある職場環境作りの一端をも担っている。

